

## 1 学習に取り組んでいる主な分野

<input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性	<input type="checkbox"/> 海洋	<input checked="" type="checkbox"/> 防災・減災	<input checked="" type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input checked="" type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 平和	<input checked="" type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ( )	

## 2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、地域の「ひと・もの・こと」を教育活動に生かし、「いのち・人権」「環境」「郷土・国際理解」の視点から ESD の推進を図ってきた。授業では「関心の喚起⇒理解の深化⇒参加する態度や問題解決能力の育成」を通して、具体的な行動を促すという一連の流れを大切にしている。また、子どもたちが思考力を大いに発揮し、コミュニケーションの活性化を図って課題追及ができるように、体験活動を位置づけた学習を展開している。



## 3 特徴的な活動事例の紹介

### ○ 「いのち・人権」に係る学習

3年生「吉野のやさしさ伝え隊」では、地域の見守り隊の方や民生委員・児童委員の方々の思いや願いを聞き、自分自身が多くの方の愛情を注がれ、大切にされていることに気づくとともに、地域の方々のためにできることを考えた。民生委員さん達の話から、吉野の地域には、ご高齢の方がとても多いという実態があることを知り、まずはお年寄りの方の気持ちに寄り添うために、高齢者体験を行った。そこから、これから地域の方とどのように関わっていきたいか、行動目標をたてることができた。「吉野校区 福祉の集い」など、地域の方々が主催する行事にも、進んで参加して、地域の方へ恩返ししようという気持ちをもつこともできた。



## ○「環境」に係る学習

4年生「生き生きビオトープ大作戦」では、専門家の方からご指導いただきながら、学校の中庭にあるビオトープの維持管理活動を行った。まず、ビオトープに生息している生き物を調べた後、日本の固有種を守り育てていくためにできることを考えた。看板を立てて下級生や校外の人にビオトープのことを知らせたり、生き物のすみかとなりやすい空間をつくったりして、意欲的に活動した。活動を通して、ビオトープやその周辺を「自然の中のいのちがつながる場所」として守り育てていきたいという思いをもつことができるようにした



## ○「防災・減災」に係る学習

5年生「守ろう！私たちの命」では、社会科の学習をきっかけに、自然災害が起きたときに備えた準備や避難場所について調査活動を行った。校区でどのような災害が多いのか、また、災害の種類に応じてどのような行動をすればよいのか、大牟田市の防災危機管理室の方からお話を聞いたり、地域の方と一緒に避難体験を行ったりして、災害時に自分たちにできることを考えることができた。現在は、「防災は普段の行動から」を合い言葉に、緊急時お互い助け合える関係を築いていくため、挨拶や優しい声かけなど、他者とのつながりを大切にしたい行動をしていくことに取り組んでいる。



## 3 今後の活動計画

学校教育目標を「持続可能な社会作りを担う、心豊かでたくましい吉野の子どもの育成」とし、目標とする児童の姿やそれに向かわせる授業展開、学習内容を見直しながら、次年度も「いのち・人権」「環境」「郷土・国際理解」を中心に取組の充実を図りながら学校全体で推進していく。そのために、

- 年度ごとに各学年の実践の成果と課題を洗い出し、次年度につないで発展していくようなカリキュラムの改善を図る。
- 目指す子ども像を明確にし、その達成に向けて身近な「ひと・もの・こと」をどのように活用すれば効果的かを考えるとともに、人材バンクを蓄積・整理していく。
- 様々な体験活動や協働学習を効果的に位置づけ、子ども達が自ら進んで活動を広げていくことができるようにする。